

P4~P5

市民活動お役立ち情報。

広報計画を立てよう

P2

活動ウォッチング **Renewal!!**

湯沢あかねの会

P3

わくわくげんき。 **Renewal!!**

P6

5年後の秋田を考える

～全国一斉「地方創生」！

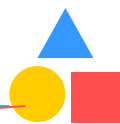
高齢者率日本一の秋田、こう創る～

編集スタッフのつばやき

今月の表紙「伝えよう、自団体の活動と想い」

5月23日、南部男女共同参画センターで「市民活動団体のための伝える！ニュースレターの文章カアツ講座」が開催され、16人の参加がありました。講師は、秋田魁新報社横手支社長の渡辺伸也さん。取材時の心構えや編集時の文章の書き方などについて実際に新聞社で使われているノウハウを教えて頂き、参加者からは「今日からすぐに学んだことを活用したい」という感想が寄せられました。今月の「市民活動お役立ち情報」では、これに関連して広報計画について考えます。(奥ちひろ)

講師
渡辺伸也さん
秋田魁新報社横手支社社長



THEME_ボランティア団体/NPO

地域で安心して暮らし続けるために

～介護を必要とする高齢者の援助・支援を通した
住みよいまちづくり～



DATE_団体情報

湯沢あかねの会 (湯沢市)

代表/丹 すみ子さん

連絡先/TEL.0183-72-3283

左/代表の丹さん。会のパンフレットにある「湯沢あかねの会」の文字は、初めて利用会員となった方が書いてくれたもの。下/事務所の予定表には、毎日のように利用会員への訪問予定が並んでいる。



初夏の暑さが少し和らぎ、暮らしやすく感じるようになりました。湯沢市には高齢者が暮らしやすいよう援助・支援活動を長年続けている湯沢あかねの会があります。「近所の高齢者の手伝いを続けたい」という思いが団体発足のきっかけ」と代表の丹すみさんは微笑みながら話します。

これまでの“常識”では地域が成り立たない

今から23年前、丹さんは日常生活を送りながら近所に住む高齢者の生活の手伝いをしていました。しかし、当時は高齢者の援助等は家族が担う風潮が強い時代でした。そんな周囲の眼差しから、家族ではない丹さんは手伝い続けることが徐々に難しく感じるようになったそうです。

ある日、ラジオを聞いているとホームヘルパー養成講座が仙台市で開かれることを知ります。資格があれば手伝い続けられるかもしれないと思った丹さんは講座を受講。高齢社会の到来に伴って、介護は家族が担うだけでなく、市民同士が助け合うことが必要であると学びました。仲間を募った丹さんは、平成17年、湯沢あかねの会を立ち上げました。

活動を通して気持ちが通う瞬間が幸せ

湯沢あかねの会が行っているのは、身支度や掃除、洗濯等の日常生活を営む上で困難を抱える高齢者の家事援助や通院介助、話し相手など、毎日の生活支援です。同会のサービスを受けたいと登録した利用会員の中には、介護保険制度による要介護認定を受け、自宅や施設等でヘルパー等の介護サービス

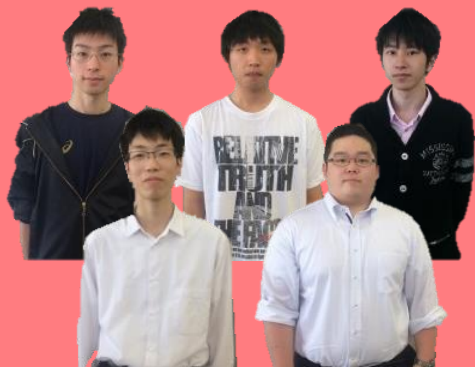
を受けている人も多くいます。しかし、この制度は本人の身体的状況によって受けられるサービスが異なり、制度の中だけでは担いきれない要望も少なくないといいます。同会では、支援を必要とする当事者やその家族の声に耳を傾け、それらの要望に応えています。また、利用会員の中には、一人暮らしで家族が遠くに住んでいる方もいることから、活動後は家族に報告することも大切にしているそうです。

丹さんは活動のやりがいについて「利用会員だった方が認知症により意思疎通が困難となった際、発症前より思い入れがあった花を話題に話しかけたところ、懐かしく思い出を語り合うことができた。気持ちが通う瞬間に魅力を感じる」と話しました。

互助の活動への期待が高まる

急速に進む高齢化を受け、国は平成26年に介護保険法を改正。また、医療介護総合確保推進法が成立しました。要支援1、2の対象者は介護保険制度の給付対象外となる等、今後ますます高齢者を家庭や地域の中で支えていくことが必要となります。丹さんは、地域での助け合いの活動の必要性や方法を伝え、活動する仲間を募っていきたいと考えています。

同会が大切にしている精神は「困ったときはお互い様」。その活動は、援助を必要とする高齢者に限らず、市民が住みやすいまちをつくるためにも必要であると感じました。(山本能道)



横手高校定時制生徒が行く！

わくわくげんき

今年度は『ハンサン』の高校生ライターとして、高校生がみなさんの元に取材に伺います。今月号では、生徒のみなさんにボランティア・NPOに関する印象を伺いました。
(奥ちひろ)

Vol.1

ー「NPO」について知っていますか。

戸沢 言葉として聞いたことはありますが、どんなことをしているのかよく分かりません。

高橋 「NPOはボランティアの上のほう」というイメージがあります。「地域」だけでなく「世界」でも活動している気がします。

高橋 世界の貧しいところを援助しているイメージです。

遠藤 募金活動をしている印象があります。

中山 人助けというイメージがあります。

戸沢 地域特有のイベントを開催しているところもありますよね。

野表 除雪ボランティアをしているところも。

中山 以前に、東日本大震災で被災し、県内に避難している方を支援する活動が湯沢市で行われ、ボランティアとして参加しました。そのときのスタッフの方は福祉の活動をしている方でした。経済的に困難を抱えている子どもを援助しているようでした。

ーみなさんのボランティア活動経験は。

遠藤 横手市で行われた親子向けイベントのボランティアをしたことがあります。雪を高く積んでいく競技があり、高さを計りました。子どもたちが必死にやっているのを見ながら応援するのも楽しかったし、スタッフもわいわい楽しそうでした。

戸沢 湯沢市で県外の小学生を対象としたカヌー体験があり、一緒にカヌーに乗ったり川遊びをしたりして遊んだことがあります。

野表 湯沢市で開催される七タマラソンのボランティアをしたことがあります。事前準備としてテントの設営をしたり、マラソン開始後は給水所のスタッフをしたりしました。普段見ることができないことを見られたのは、良い経験になりました。

ーボランティア・NPO活動への興味は。

遠藤 よくボランティア募集の情報を見かけるけれど、自分には縁がないと思っていました。でも、実際にやってみると経験を積む意味でも参加したいと思うようになりました。

高橋 私も体験する前は面倒だなと思っていました。でも、やってみると苦にはならなかったしやりがいもありました。ちょっと疲れも感じましたが、自分が手伝うことで成功させることができたのは嬉しかったです。

野表 やりたいと思う活動でなければ、参加する気にはならないのかなと思います。自分のやりたいことを優先してしまいます。

ーボランティア・NPO側は、「やりたい」と思ってもらえるようなアピールが大切かもしれませんね。

中山 やはり、いきなり活動に飛び込むのは抵抗があります。なんとなく人助けの活動はコミュニケーション力の高い人がやっている印象があるので、自分にできるかなと不安になります。

戸沢 私はインドア派なので、ボランティアをしている自分が想像できず、気は乗りません。1人で参加するのは抵抗がありますが、友人と一緒になら参加しやすいように思いました。

ーいきなり飛び込むのは不安がありそうですね。

戸沢 誘ってくれる人がいたら参加しやすいです。

中山 身近にボランティア・NPO活動をしている人がいて、がんばっている姿を見る機会が日常の中にあれば参加しようと思う人も増えるように思います。なんとなく、まだボランティアやNPOは身近でない感じがします。

ーボランティア・NPOに対する高校生の率直なイメージや今の考えを聞いて、活動者側の私たちにとって参考になるところがあるように思いました。次号からは、いよいよ高校生が活動の現場取材しに伺います。

THEMA

広報計画を立てよう

日頃の取り組みや計画中のイベント、サービス等、様々な人に自団体の活動をお知らせしたい団体も多いのではないのでしょうか。活動の準備が忙しく、広報に力をかけられずにいる方や、周知方法に悩んでいる方も少なくないと思います。

今月は、効果的な情報発信の方法について考えていきます。(奥ちひろ)

■ 広報とはなにか

はじめに、「広報」とは組織が活動内容やサービスなどの情報発信を行う業務のことをいいます。新聞や雑誌、テレビなどの広告枠を買って宣伝を行う「広告」に対して、「広報」は一方的な情報発信に留まりません。団体と他者との間でコミュニケーションを図り、新聞や雑誌などの媒体に記事として取り上げてもらったり、会員や寄付者、協力者、サービスの受益者などの関係者に対して活動内容などを理解してもらったりすることを指します。

■ 活動ごとに広報活動の計画を立てましょう

みなさんの団体でも、チラシを作って配布したりインターネットを活用したりして広報活動をしているのではないのでしょうか。その際の広報計画は作っていますか。広報活動も、各事業・活動の計画と同じように、実施日までのスケジュールを立てて進めることが効果的です。

- ①お知らせしたい内容が決まる
- ↓
- ②情報発信のターゲットを決める
- ↓
- ③ターゲットに合う発信の手段を決める
- ↓
- ④情報を届ける時期と内容を決める

■ 情報を届ける相手と発信方法を決める

お知らせしたい内容が決まったら、まずはその情報を誰に届けるか(情報発信のターゲット)を考え、それに沿った発信方法を検討します。

例えば、ターゲットが20代、30代の若者で比較的インターネット等のITに強いのであれば、FacebookやTwitterなどのSNSを活用して情報を届けていく方法が考えられます。一方で、ターゲットに高齢者が多いとすれば、県内のIT普及率や高齢者が馴染みのある媒体であることを踏まえ、新聞や各市町村の広報を活用する方法が考えられるでしょう。

ここで注意しなければならないのは、活用する広報媒体の特性です。例えば、新聞や市町村の広報、団体が作成して郵送するチラシやニューズレター等は、情報の受け手の関心の有無に囚われず、確実に手元に届けることができる媒体です。最初は関心を持ってもらえなくても、時間のあるときに読んだことで初めて理解や関心を頂ける場合も少なくありません。一方で、団体のホームページやブログなどの場合は、情報の受け手が自分から情報を取りに行かなければならない媒体です。そのため、初めから関心のある方でなければ届

きたい情報を伝えることはできません。広報活動は、どういう人に情報を届けたいのかを具体的にイメージし、その人に合った情報発信手段を考えて広報媒体を選んでいくことが大切です。また、異なる性質を持った媒体を複数用意していくことも効果的です。

■ 広報媒体と特性 (一例)

媒体	読者・ツールの特徴
新聞・市報等	年配者が多い。自宅に届き、紙で残る(保存可)
タウン誌等	比較的幅広い読者。購入または施設・店舗などでの設置・閲覧。
テレビ、ラジオ	放送時間次第。紹介のされ方によりインパクト大。
チラシ	対象者に直接届けられ、紙で残る(保存可)。関心がないと捨てられる。
Facebook	読者年齢は幅広く、直接やりとり可能。情報が拡散されやすい。
ブログ・HP	関心が高い読者。伝えたいときに伝えたいことを更新しやすい。

情報を届ける時期と内容を決める

次に考えるのは、情報を届ける時期と内容です。

例えば、イベントのお知らせをする場合、あまりにも開催日間の情報発信では、情報の受益者が参加したいという気持ちがあっても既に別の予定が入っていて参加できないということも大いにあります。逆に、開催日より前になればなるほど、目にしたときに関心を持ってもらえても直前に忘れられてしまうこともあります。情報の受け手にとって、一番予定を入れられやすい時期に情報発信していくことが大切です。

場合によっては、開催1か月前と2週間前など、複数回に分けて告知をしていくことも有効です。その際は、毎回同じ情報を届けるのではなく、参加意欲を高めるような詳しい情報をその都度追加してお知らせしていくことも有効です。

例

7月12日に開催するイベントを告知したい

イベント名：「勝手に若者歓迎会」
 主旨：県内で暮らす若者の地域および職場への定着を図るため、若者同士の交流会を行うとともに、若者による地域活動への参加を促す
 日時：平成26年7月12日（土）
 場所：南部男女共同参画センターほか
 内容：参加者の交流を促す自己紹介ゲーム、秋田の良さを知る企画など
 参加対象：20代の若者（職業、性別等不問）
 参加申込締切：7月2日（水）

広報の役割

・イベントの告知、参加者募集として広報活動したい

広報スケジュール

6/12 プレスリリース1回目
(参加者募集・周知依頼)

6/29 プレスリリース2回目
(当日の取材依頼)

5月末

チラシ作成配布
 SNS等で発信
 参加呼びかけ

7/5 参加申込締切
 7/12 イベント当日



チラシには、上記概要を参加者が魅力を感じる文章で、主催者・問合せ先も忘れずに。

*プレスリリース

報道機関に向けた、情報提供・告知・発表のことで、「ニュースリリース」「報道発表」ともいいます。

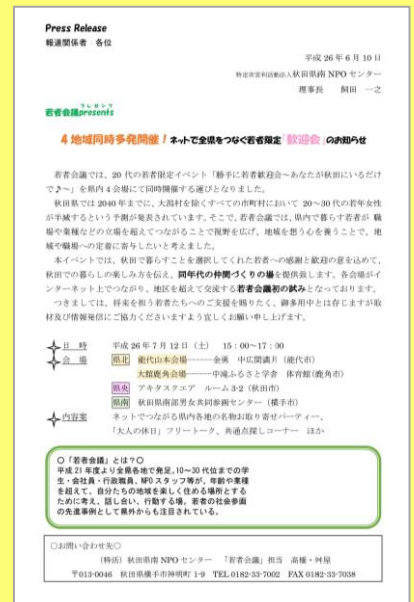
まずは、報道機関向けの依頼文書を作成し、参考資料と共にFAXまたは手渡しをします。受け取った報道機関は、資料に目を通し報道できる内容かどうか、他のニュースとの優先順位も合わせて検討し、採用となればニュースとして取り扱ってもらうことができます。

依頼文書は、できるだけ簡潔に、分かりやすく作成しましょう。お知らせしたい内容の特徴を客観的にアピールしたり、インパクトのある見出しをつけたりすることも良いでしょう。また、取材をお願いしたいのか、募集記事を掲載してほしいのか等、依頼の趣旨を明確にすることも大切です。

報道機関に知り合いの記者がいる場合は、直接連絡をとって伝えると効果的です。特に地域に密着した報道機関ほど、地域の情報を募っています。活動の意義と熱意を伝え、報道してもらえるようアピールしましょう。

広報活動報告書をまとめておく

広報活動を行ったら、団体内で、いつ、どこにプレスリリース文書を配信したか、どこにチラシを配ったか、予算はいくらかかったかなどを記入しておくことと団体内での進捗管理に使えたり、今後の広報活動の際に参考資料となったりします。広報活動にも、少なからずお金がかかります。終了後はその効果を測り、今後の広報活動で力を入れる方法を検討していきましょう。



5年後の秋田を考える

～全国一斉「地方創生」！高齢者率日本一の秋田、こう創る～

最近よく見聞きする「地方創生」。私たちの住むまちにとっても、他人事ではありません。秋田県でも、国のこの方針に基づいた秋田版「総合戦略」を秋口に策定予定です。それにあたり、県では各分野の関係者・有識者らとの意見交換等を実施し、“4つの視点”に沿った県民からの提言を募っています。このコーナーは、市民活動等に関わる方から“4つのテーマ”へのご意見を頂戴し、広く発信していくものです。

今月のテーマは“東京圏等から秋田への人の流れをつくる「移住定住対策」”。移住する若者の多さで注目されている島根県隠岐郡海士町に自らも移住した秋元悠史さん（大仙市出身）よりご寄稿を頂きました。

魅力的な「しごと」のある「まち」に「ひと」は集まる 隠岐島前高校魅力化プロジェクト／隠岐國学習センター 秋元悠史

「隠岐島前高校魅力化プロジェクト」がまだ注目を集めていなかったころ、当時は全国的にも珍しかった公立塾のスタッフとして、廃校の危機に瀕する離島の高校の挑戦に関わるために海士町へ移住し4年半が経った。様々な場面で「なぜこの島に来たのか」を聞かれるが、最大の理由は「仕事が魅力的だったから」に尽きる。同様によく聞かれるのは「なぜ海士町にこれだけ多くの若者が集まるのか」だが、「魅力的な仕事が多いから」というのがその答えだ。

「仕事がないから地元には帰れない」。多くの地方出身の若者が口にする言葉だが、より具体的には「地方にはやりがいのある仕事がない」ということだと思う。では、やりがいのある仕事とは何か。それは新しい価値を生みだすことが求められ、自分の能力や意志を存分に発揮することができ、仕事の成果に意義を感じられ、裁量と結果に対する責任を伴うものである。実際、海士町に集まる若者の多くは、島の求人の魅力を見出し移住してきている。

どうすればやりがいのある仕事をつくれるのか。海士町で実際に採用業務に携わった経験を踏まえると、何よりもまずその求人に期待することの具体性が求められる。その地域の課題に当事者意識をもって取り組む主体が、目標達成のために必要となる人材要件を洗い出す。強い目的意識を持って採用活動をすることで、自然とその仕事は魅力的なものになり、移住者の公私を通じたサポート体制の充実につながる。

政府は、「地域おこし協力隊」を3倍に増やす、と

しているが、ともすれば全国の自治体による都市部の人材の争奪戦になりがちだ。これは受入側の期待が曖昧であるためにどの仕事も横並びに映るのが原因だろう。事業ありきで求人をつくるのではなく、現場のニーズに即して事業を活用する発想が問われる。こうした求人をつくれるかどうかには自治体の力量が反映されると言ってもよい。

自治体単独での求人募集が難しければ、こうした魅力ある県内の求人について県が中心となって合同の採用説明会を首都圏で開催するのが有効だろう。魅力ある求人がいくつもあるということが、やりがいのある仕事に関心をもつ層への訴求力を高め、そうした攻めの姿勢が「魅力にあふれた仕事がある秋田県」としてのブランディングにもつながる。ここにおいては県内の自治体が横並びで求人を用意する必要はない。自ら手を挙げるやる気のある自治体をサポートし、成功事例を1つでもつくっていけばよい。もちろん、人材が成果を出すのも地域に定着するのも1、2年で結果が出るものではないことは注意しなければならない。

魅力的な仕事があるまちに志ある移住者が募り、その人たちがまちづくりに関わることで、更なる移住者が集まる好循環が生まれる。先進事例として挙げられる海士町や神山町だけでなく、例えば県内でも五城目町はすでにその兆しが見え始めている。こうしたモデルケースを1つでも多く生み出し育むことが、秋田県全体の移住・定住促進の風穴を開ける突破口になると考える。

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン

2015年6月10日発行
6月号 VOL.102

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王西四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター（南部市民活動サポートセンター）

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00～18:00
土 9:00～17:00

【休館日】木曜日・年末年始（12/29～1/3）

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail.ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/hg030001



編集スタッフの VOL.02
つぶやき

NPO派遣相談員
今 拓也

田植えも進み、新緑の季節から梅雨へと、気候が変わりやすい毎日
と なっていますね。さて、私は「NPO派遣相談員」の業務の傍ら、
所属NPO法人にて総務経理を担当しています。決算月が3月のため、
毎年5～6月は決算処理や総会準備、所轄庁への提出書類作成などの
業務に忙殺される日々です。これを読んでいる方で、同じ境遇の方も
多いのではないのでしょうか。サポセンでは、これらの相談にも対応し
ております。お気軽にご連絡ください。また、今年度は会計ソフト体
験会やNPO出張相談会の開催を検討中です。新たな展開にご期待く
ださい。二連の業務が終わったら〇〇に行こう！地元某公園にやっ
てくる〇〇キャラバンにも行きたいぞ！さあ、がんばろう..